

市民と行政の協働で明日のまちを描く ～『登別市まちづくりアクションプラン』策定～



第5回登別市都市計画審議会の様子

3月25日(火)、第5回登別市都市計画審議会が開かれ、会長から上野市長に『登別市都市計画マスタープラン』の答申が行われました。市は、これをもとに同月31日(月)に同計画を決定。これにより、『登別市まちづくりアクションプラン』を構成する3つの計画の策定作業が終わりました。

『登別市まちづくりアクションプラン』は、登別市の20年後を想定し、将来の土地利用や交通施設・公共施設のあり方などの計画を盛り込んだ『都市計画マスタープラン』と、街並みや自然などの景観形成の方向性を示す『景観形成基本計画』、自然環境の保全や公園の配置などを盛り込んだ『みどりの基本計画』の3つを合わせた計画の総称です。

市は、市民と行政が登別の将来像を共有するため、計画に着手した平成11年度からアンケート調査をはじめ、市民会議、地域別懇談会、策定委員会などを開催し、多くの市民のみなさんからご意見やアイデアなどをいただきながら、文字どおり市民と行政の協働で策定作業を進めてきたものです。

策定を終えた『登別市まちづくりアクションプラン』は、さまざまな人々の参加を通じて築かれる新しい登別市の姿をイメージし、テーマを『語りいからはじまる新しいまちづくり』としています。

市は、同プランを市のホームページに掲載するとともに、近く概要版を作成し、希望する方へ配布する予定です。

市のホームページ

<http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp>

私だけのこけしができました

～こけし絵付け教室～

4月14日(月)、登別温泉小学校でこけし絵付け教室が開催されました。

この教室は、登別市の姉妹都市である宮城県白石市の文化を理解し友好を深めようと、平成元年から小学校持ち回りで毎年開催されています。

今年は宮城県白石市からこけし工人の国分栄一さんを指導者に迎え、同校2～6年生36人と地域のお年寄り5人が絵付けに挑戦しました。

5年生の富田正代さんは、「こけしの絵付けは初めてで、目を描くのが難しかったけど、思ったとおりにできました」とにっこり。

児童のこけし作品は、5月3日(土)から5日(月)まで宮城県白石市で開催される全日本こけしコンクールの会場でも展示されます。



夢を胸に479人が入学

～日本工学院北海道専門学校入学式～

4月15日(火)、日本工学院北海道専門学校で入学式が行われました。

今年で22回目となる入学式には、道内外から新入生479人、うち女子は過去最高の72人が期待に胸を膨らませ式に臨みました。

式では、中川校長が「専門分野にじっくり取り組み、将来、時代を形作る技術者に成長してほしい」とあいさつ。新入生を代表して、電気工学科の有田紗代さんが「私たちは、これからの2年間を、それぞれの目標を達成できるよう、努力します」と力強く述べました。

